

“神谷あきひこ”は、こんな東浦をつくります。

お年寄りや子育てなどに気を配り、みんなのためにバランスのよい政治を行うのは当然です。私ならココを変えます。

子孫にツケを残さない持続可能な財政運営をめざします。市になっても無駄遣いはしません。

町長の1期4年ごとの退職金(約1880万円)を廃止します。

すべての子どもに目の行き届く教育をめざします。



高齢者世帯を地域で見守る体制をつくります。

堤防の沈下や老朽化を調査し、早期に改修を進めます。

里山やため池のある自然環境を大切に守ります。

きれいでおいしい木曾川の水を毎日飲むことができるよう、国・県に働きかけます。

あなたの名案がまちを元気にします。公募のワークショップや自由な意見交換会などで、幅広く一般の意見を募ります。

まちの重要な案件について、住民投票ができるようにします。

議会のオール与党体制が崩れ、緊張感のあるものになります。チェック機関、意思決定機関として活発な議論がなされるようになります。



東浦では、トップとその周囲も含めて世代交代がまったく進んでいません。東浦の世代交代は、若いまちに比べて2世代遅れていると思います。

長くても3期12年くらいを一区切りに、新しい価値観や新しい人のつながりを入れて、若い人も含めて、東浦に住む人たち、東浦にかかわりのある人たちの知恵を結集できるまちづくりをしていこうではありませんか。人は能力を発揮して、周りからそれを評価されることが、生きがい、暮らしがいにつながっていくのではと思います。

政策的には、開発から辛うじて残った丘陵地の自然を守りつつ、鉄道など公共交通機関を生かしたコンパクトなまちづくりを指向すべきでしょう。防災対応では、堤防に不安をもっている人が多いと思います。堤防のチェックと改修を進めたいと思います。

子どもたちの未来を考えれば、これからとても大切になってくることは、教育です。世界に通用する自立した個人を形成する教育が必要です。また、大半の家庭が塾で公教育を補わなければならないのは問題です。目の行き届く体制を作っていくことがすべての子どもたちにとって教育の機会均等につながると思います。子どもたちにツケを残さない財政運営も未来に不可欠な要素です。

老後の不安も見逃ごせません。地域の中でみまもられながら、お年寄りが心豊かに過ごせる社会をめざさねばなりません。

すべてを役所が背負い込んではいけません。住民参加は不可欠です。とくに意思決定や素案作りの過程に主権者である住民が関わることは、民主主義の理念にもかなうと思います。

**東浦の幸せな未来の
ための6つの改革** 詳しい政策は
QRコードから

